

インフラ事業を通じた浜松市天竜区佐久間町における水源地域活性の未来

(株)オリエンタルコンサルタンツ 正会員 ○空かおり

(株)オリエンタルコンサルタンツ 非会員 本村恵大、堀江萌里

1. 背景

本稿で記述する浜松市天竜区佐久間町において、国土交通省では、天竜川中下流部の洪水防御をするため、佐久間ダムを有効活用した新たな洪水調節機能の確保や恒久的な堆砂対策等の「天竜川ダム再編事業」を進めている。また、長野県飯田市（中央自動車道）と静岡県浜松市（新東名高速道路）を結ぶ高規格幹線道路である「三遠南信自動車道」の整備を進めている。

佐久間ダムが位置する「浜松市天竜区佐久間町」では、1956年佐久間ダム完成から約65年が経過し、人口はダム完成当初の約2万5千人から現在は約4千人へと減少し、高齢化や地域経済の縮小等の問題を抱えている。

2. 社会情勢と対策

(1) 中山間地域への移住者の増加

近年「田園回帰」による人の流れが全国的に拡大しつつあり、中山間地域の持つ魅力や価値が再評価されている。新型コロナウイルス感染症拡大も、中山間地域への関心の高まりを後押ししていると考えられる。

地方暮らしやUIJターンを希望する移住相談件数は全国的にも増加傾向にあり、年齢階層別に見ても20代～30代の問い合わせ割合が増加している。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、テレワーク・ワーケーションが促進され、本部を都市圏から地方に移す企業や支社所属という概念をなくす企業など多様な働き方が促進されていることも背景にあると考えられる。

(2) 都市圏への人口集中

中山間地域への移住者が増加する一方、東京をはじめとした都市圏への人口集中は現在も進んでおり、深刻な社会問題となっている。

都市圏への人口集中は、都市における過密化等による感染症リスクや自然災害リスクの増加、交通混雑等を引き起こす一方、中山間地域をはじめとした地方においては、人口流出による地域経済・産業の担い手不足や、コミュニティ維持の困難を引き起こす要因となる。

3. 交通インフラの進展によるメリットとデメリット

(1) メリット：人流・物流の進展による地域活性化

三遠南信自動車道の開通やリニア中央新幹線の開業等の交通インフラの進展により、都市圏や周辺地域からの人流がより加速し、観光客の増加や物流の進展等が期待できる。これにより、三遠南信地域の交流促進、連携強化および奥三河・北遠州・南信州地域への高速サ

ービスの提供、災害に強い道路網の構築、地域医療サービスの向上等が期待できる。

(2) デメリット：ストロー現象による人口流出の恐れ

デメリットとしては、ストロー現象が挙げられる。三遠南信自動車道の開通やリニア中央新幹線の開業等により、浜松市や東京などの都市圏へのアクセスが容易になり、更なる人口流出、地域資本の衰退が懸念される。

これら事業によるメリット・デメリットを踏まえ、佐久間町をはじめとした三遠南信地域の持続可能性を、地域住民と一緒に考えていく必要がある。

4. 佐久間町や浜松市における取組

(1) 「天竜川勉強会～天竜川とともに生きる～」

浜松市は、佐久間町において、佐久間ダム完成から60年を迎えることを機に、佐久間ダムの役割や天竜川について学ぶ「天竜川勉強会」を平成28年より開催している（図1）。

各分野の有識者を招き、天竜川と密接に関係する遠州灘海岸の浸食や、佐久間ダムの土砂堆砂、定住促進による過疎化対策、そばづくりによる地域振興等、「天竜川とともに生きる」という視点から、様々なテーマで勉強会に取り組んでいる。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響等により、近年は開催を見送っている。



図1 第1回「天竜川勉強会」の様子

(2) 浜松市の施策

1) 中山間地域振興計画

浜松市では、中山間地域の振興に取り組むため、平成27年に「浜松市中山間地域振興計画 みんなでやらまいか宣言！」を策定した。本計画に基づき、「市内間交流の促進」や「地産地消の推進」、「歴史的・文化的資産を活用した地域づくり」等の施策を行っている。

キーワード 地域活性化、水源地域、情報発信

連絡先 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2-14-19 住友生命名古屋ビル 河川港湾部 TEL 052(564)7714

2) 浜松市中山間地域まちづくり事業

浜松市では、中山間地域活動団体等が中山間地域の問題解決や振興のための事業を行う際の活動原資となる「浜松市中山間地域まちづくり事業交付金」に取り組んでいる。交付を受けた事業者は、基金を基に申請した事業を主体的に実施し、地域の様々な課題を地域と共に解決し、中山間地域の発展に取り組むことが出来る。

3) 移住者促進

浜松市では、中山間地域への移住支援を重点的に行う「移住コーディネーター」を天竜区役所内に配置し、中山間地域への移住支援に取り組んでいる。

令和2年度からは、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、多拠点居住やワーケーション拠点施設の整備を行うなど、社会情勢に合わせた移住の促進事業を展開している。

5. 佐久間と天竜川の流域未来プロジェクトの発足

佐久間町に関連するインフラ整備や佐久間町における地域課題を踏まえ、地域住民自らが課題を認識し、これら事業と併せた地域振興を考えていく必要がある。これら地域の持続可能性に対する危機感から、NPO法人がんばらまいか佐久間を中心とした地元住民らによる任意団体「佐久間と天竜川の流域未来プロジェクト(以下、未来プロジェクト)」が令和4年度発足し、活動を開始した。

この未来プロジェクトでは、自らが佐久間町の魅力を知り、三遠南信自動車道の整備や天竜川ダム再編事業などの事業と地域振興を結びつける、様々なイベント等を企画・運営し、佐久間町をはじめとした三遠南信地域の魅力の発信を行っている。

6. 令和4年度の未来プロジェクトによる取組

令和4年度の未来プロジェクトによる活動を示す。

(1) 天竜川に親しみ、触れ合う「おさかな観察会」

地域振興のイベントとして、佐久間町の児童を対象に、天竜川に生息する生き物と触れ合い、天竜川の魅力を体験及び学習する「おさかな観察会」を開催した(図2)。このイベントにより、天竜川について地域の方々に関心や親しみを持っていただくことに繋がった。



図2 「おさかな観察会」の様子

(2) 佐久間の未来を語り合う「天竜川勉強会」

令和4年度の「天竜川勉強会」は、三遠南信自動車道の整備及び天竜川ダム再編事業による佐久間地域への影響(地域振興等)を考え、佐久間町の「未来像」を語り合う、をテーマに開催した。また、佐久間地域の食文化に着目し、佐久間地域の特産品である「五平餅」や「佐久間そば」等を販売するマルシェも併せて開催し、佐久間町が持つ魅力の周知を行った(図3)。



図3 令和4年度の「天竜川勉強会」の様子

7. 佐久間における未来の可能性

昨今の社会情勢や未来プロジェクトによる活動を踏まえ、佐久間町における未来の可能性を整理した。

(1) 新しい佐久間の食文化の発信

未来プロジェクトの一員である浜松市山里応援いきいき隊では、新しい佐久間の食文化を開発するため、アワビの養殖や鮎のオイル付け等の特産品の開発を行っている。三遠南信自動車道の事業や天竜川ダム再編事業等の事業により、これら新しい佐久間の特産品が注目され、佐久間地域の産業振興に繋がると考えられる。

(2) 佐久間ダムを活用したインフラツーリズム

近年、ダム等のインフラ施設を活用した「インフラツーリズム」が注目を集めている。全国のダム等のインフラ施設で、ツアーの開催やダムカードの発行、ダムに関連したダムカレー等の商品開発、ダム内のトンネルで貯蔵・熟成したダム酒の販売等、様々な企画が検討・実施されている。佐久間ダムにおいても、これらインフラツーリズムを展開することで、産業振興が期待できる。

(3) ダム際ワーキング

ダム際ワーキングとは、ダム内やダム近隣のカフェ、宿泊施設等で仕事をしつつ、自然の中でリフレッシュする新しい働き方を指しており、リモートワークやワーケーションの一つの形態として近年注目されている。

佐久間ダムでも近年開催されており、ダム近郊に足を運び、企業や行政の人材開発、キャリア開発等に特化した越境学習をワーケーション形式で行っている。

8. さいごに

佐久間町をはじめとした三遠南信地域では過疎化が進む一方、豊かな自然やインフラ施設に恵まれている。今後も未来プロジェクトによる活動を促し、地域の魅力を発信することが重要である。国土交通省浜松河川国道事務所は、浜松市天竜区佐久間町において、三遠南信自動車道の整備と天竜川ダム再編事業を進めている。